

〈参考〉

施策体系を構成する
8基本施策(まとめ)

基幹施設の耐震性強化

水道施設の根幹をなす取・浄・配水場及び管路施設については、水道インフラとして保持すべき耐震性能と経営の持続性に資すべき経済合理性を両立させながら、それぞれの特性に応じた耐震性強化や経年施設の計画的な更新により、あらゆる地震の発災時においても、給水継続が可能な危機耐性のある水道システムを構築する。

施策の概要

取・浄・配水場施設

水道インフラとして保持すべき耐震性能と経済合理性を両立させた最適な整備・維持管理方針に基づくアセットマネジメントの推進

経年施設……………計画的に全面更新

耐用年限を経過していない施設……耐震診断を行った上で、計画的に補修、補強、全面更新

エマージェンシーラインの構築（柴島下系）[STEP1]

新浄水処理系統の構築、3系施設の耐震化（柴島再構築）[STEP2]

導・送水管（鉛継手のダクタイル鋳鉄管を対象）

基幹管路の耐震適合率 100%[STEP2]

配水管（鋳鉄管及び主に初期に布設されたダクタイル鋳鉄管を対象）

配水管のうち、基幹管路の耐震適合率 100%[STEP2]

配水機場から重要給水施設に至る管路の耐震化[STEP2]

（内、広域避難場所及び災害医療機関は STEP1）

配水支管のうち、2次配水ブロックのフレームを構成する管路の耐震化[STEP2]

給水管

ダクタイル鋳鉄管やポリエチレン二層管を採用

耐震継手を有するダクタイル鋳鉄管の使用促進や耐震性に優れた新たな材料の導入に向けた検討

計画推進目標の視点

[STEP1] 南海トラフ巨大地震に備えた整備：短期～中期

[STEP2] 上町断層帯地震に備えた整備：短期～長期（継続的に推進）

給・配水拠点ネットワークの整備

これまで整備してきた給・配水拠点ネットワークを形成する浄・配水場施設等を最大限に活用し、各施設の耐震性能の維持・向上を図るとともに、応援・受援のための広域的な前線となる応急対策活動ヤードとしての必要な機能拡充や、地域密着型の新たな応急給水拠点の開設を図る。

施策の概要

飲料用耐震性貯水槽（400m³、9か所）の活用

応急活動拠点の分散配置

応援・受援の広域的な前線となる応急対策活動ヤードの機能整備

応急給水ステーションの開設

本市水道施設を活用した地域密着型の新たな応急給水拠点整備

計画推進目標の視点

短期～中期

配水系統間の相互融通性向上

震災後における緊急的かつ弾力的な配水運用を可能とするため、配水管路網の階層化を図り、幹線ネットワークの強化並びに配水管理のブロック化をより一層推進することで、配水系統間の相互融通性向上を図る。

施策の概要

幹線ネットワークの強化

大淀送水管と柴島浄水場上系の配水池との連絡管布設
浪速枝管の新設（残余部分）
各配水機場の水源・ルートを複数確保

配水管理のブロック化

一次配水ブロック（18 ブロック）
ブロック内の主要管路の複数化、配水・水質テレメータの整備
将来の需要動向を踏まえた口径の適正化
二次配水ブロック（約 560 ブロック）
隣接ブロック間の連絡管の整備
将来の需要動向を踏まえた口径の適正化

計画推進目標の視点

短期～長期（継続的に推進）

停電対策

停電が長期化した場合でも取・浄・配水場運用に不可欠な電力を安定して確保するため、総合的な停電対策を推進する。

施策の概要

浄水処理施設の運転用自家発電設備の整備
燃料貯蔵設備の拡充（24 時間から 72 時間への増強）
民間と連携した震災時の燃料調達手段の検討

計画推進目標の視点

施設運転用自家発電設備の整備：短期～長期（継続的に推進）
燃料貯蔵設備の整備：短期～長期（継続的に推進）
震災時の燃料調達手段の検討：短期～中期

資材保有体制の拡充

断水区域にあっても通常レベルの給水を可能とするプッシュ型の
応急給水体制が実現できるよう、引き続き応急給水用資器材及び応
急復旧用資機材それぞれの保有体制を確保し、事業継続計画(BCP)
の円滑な実施に資することができるよう整備する。

施策の概要

応急給水用資器材

拠点給水方式

バルーン式仮設水槽（4 m³）、組立式仮設水槽（1 m³）、
布製給水タンク、ポリ容器（10ℓ）、ポリ袋（3ℓ）、
リュック式ポリ容器（6ℓ）、仮設給水栓

運搬給水方式

加圧ポンプ付き給水車、車載型給水タンク（350ℓ）

その他（応急給水方式の多様化）

備蓄水、連続自動飲料水袋詰機の導入 など

応急復旧用資機材

広域的な復旧活動に対応した備蓄計画の推進

計画推進目標の視点

短期～中期

バイエリアの給水安定性強化

大阪の再生・成長に向け、さらなる経済振興と都市魅力向上の拠点となる咲洲、舞洲、夢洲と在来臨海部を一体とした水道バイエリアネットワークの構築を図る。

施策の概要

舞洲、夢洲及び在来臨海部を結ぶ配水幹線の布設
夢洲内の配水支管の布設、配水・水質テレメータの整備
異なる配水系統からの水源確保

計画推進目標の視点

短期～中期

情報通信システムの信頼性強化

震災後における本市水道の事業継続計画(BCP)による組織的な即応体制を迅速に発動・機能させるとともに、水道施設の稼働状況等を早期に把握するなど、一連の非常時優先業務を円滑に行うための情報通信システムを確保する。

施策の概要

次世代型の信頼性の高い情報通信システムの構築
水道 DX による総合マネジメントシステムの構築
災害情報システムの機能向上
浄・配水場制御系システムの信頼性向上
新たな付加価値をプラスした情報通信手段の確保

計画推進目標の視点

短期～長期（継続的に推進）

地震対策に係るヘッドクォーター施設の耐震性強化

ヘッドクォーター施設がそれぞれの役割に応じた機能を確実に保持できるよう、アセットマネジメントを計画的に推進するとともに、リモート機能の拡充など、ソフト・ハードの両面から危機耐性のあるヘッドクォーター機能の強化を図る。

施策の概要

ヘッドクォーター施設のアセットマネジメント推進
必要箇所の修繕、耐震補強、建替等
リモート機能の拡充
MR（Mixed Reality：複合現実）技術の導入

計画推進目標の視点

短期～長期（継続的に推進）